

平成29年度 最終評価報告書

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
<p>1. 地域と連携したグローバル人財の育成</p> <p>①小中学校等との協働研究事業を推進する</p> <p>②小中学校と生徒間交流事業を拡充する</p> <p>③実践的・探究的地域学習を充実する</p>	<p>* 地域連携の協議会</p> <p>* 授業公開と授業参観</p> <p>* 研究授業と研究協議会</p> <p>* 挨拶指導</p> <p>* 中高学習交流</p> <p>* 進路学習交流</p> <p>* 地域調べ学習と成果発表</p> <p>* 朝市出店販売実習</p> <p>* 地域ボランティア</p>	<p>協議会、授業参観、研究授業等に参加し、地域の教育力の向上に貢献できたと考える教員の割合が</p> <p>A 70%以上</p> <p>B 50%以上</p> <p>C 30%以上</p> <p>D 30%未満</p> <p>小中学校との生徒間交流事業の実施回数が</p> <p>A 8回以上</p> <p>B 6回以上</p> <p>C 4回以上</p> <p>D 3回以下</p> <p>課題意識を持って、積極的に地域と関わり、地域への理解を深めることができた生徒の割合が</p> <p>A 90%以上</p> <p>B 80%以上</p> <p>C 70%以上</p> <p>D 70%未満</p>	<p><u>76% A</u></p> <p><u>12回 A</u></p> <p><u>81% B</u></p>	<p>成果：本校の多くの教員が輪島中学校及び河井小学校の授業を参観した。また、東陽中学校の研究発表会にも参加した。このことにより、小中学校の授業の様子や児童生徒の状況について理解を深めた。</p> <p>課題：小中高・家庭・地域が連携協力してより効果的な取組を行っていくこと。</p> <p>改善策：小中学校の取組に対して理解を深めたうえで、本校として目指すところを明確にし、相互に協力を図る。</p> <p>成果：各事業に参加した本校生徒は、「教える」という体験を通して地域貢献意識を高め、自己有用感や達成感を得た。</p> <p>課題：より多くの生徒が小中高生徒間交流事業に参加できるように、事業の規模や日程を工夫すること。</p> <p>改善策：小中学校との情報交換を行ってスケジュール調整に努め、事業内容を検討する。</p> <p>成果：地域調べ学習や地元企業見学会、インターンシップ、朝市販売実習、おもてなし講座を通して、生徒の地域理解が深まるとともに、キャリア意識が高まった。</p> <p>課題：活動を一過性の体験で終わらせず、継続して行うこと。</p> <p>改善策：日々の教育活動の中で、課題解決のために思考し、発表する機会を設ける。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校との交流事業が盛んに行われており、高く評価できる。小学生と高校生が一緒に並んで挨拶運動を行っている様子は見ていて気持ちがよかった。今後も交流事業が一層充実することを期待する。</li> <li>・高校生による「若者の住みたい街の研究」を進め、具体的なイメージを積極的に発信してもらいたい。</li> </ul>			
<p>学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度より「チームコア輪島」の取組を始める。中学生にもその取組に参加してもらい、発展・深化型の学習活動を中学校と連携して推進する。</li> <li>・地域探究活動のポスターセッション、朝市販売実習、地域イベントへの参加協力等を今後も継続・発展させる。</li> </ul>			

平成29年度 最終評価報告書

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
2. 主体的な学習態度と深い思考力の向上  ①習熟度別学習指導を充実する  ②ICTを活用したアクティブ・ラーニング型授業を推進する  ③地域調べ学習で培った能動的姿勢を教科学習に活かす	* 習熟度別授業 * 発展学習講座 * 個別添削指導 * 土日学習会	入学当初の模試より模試成績を向上させた1年生の生徒が A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	<u>37% D</u>	成果：1年生普通科の基礎学力調査(4月と8月の比較)では、75%(102名中77名)の生徒が成績を向上させたが、全国模試(7月と10月の比較)では、成績を向上させた生徒の割合は37%(101名中37名)であった。  課題：入学した4月から8月にかけて基礎学力は向上したが、その後の発展的、総合的な学力を伸ばさせる手立てが必要であること。 改善策：チームコアを立ち上げるとともに、習熟度別の指導をさらに充実させることで、各層の総合的な学力の伸長を図る。
	* アクティブ・ラーニング型授業のための研修会 * 授業改善計画	アクティブ・ラーニング推進にむけた校内研修会の実施回数 A 10回以上 B 8回以上 C 6回以上 D 5回未満	<u>15回 A</u>	成果：研究授業や教科指導訪問の授業整理会、校内授業ビデオ研究会を計15回実施した。これらの校内研修会を通して、アクティブ・ラーニング型授業についての知識や理解を深め、授業実践のモデルなどを共有し、それぞれの授業力向上に活かされたと思われる。  課題：今年度より始めた「校内授業ビデオ研究会」の実施回数が増えないこと。 改善策：次年度は、年度当初より呼びかけを行い、さらに多くの教員が参加できるように環境整備を行っていく。
	* 習熟度別学習課題 * 学習時間調査 * 個別面談	自ら学習課題に取り組み、主体的・発展的に学習する習慣が身についたと考える生徒の割合 A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	<u>76% B</u>	成果：今年度途中から学習時間調査のデータ提示様式を変更し、特に、上位層の生徒へのアプローチについて一定程度の効果が表れていると思われる。また、各学年・各教科で習熟度別学習課題を工夫したことも効果があったと思われる。  課題：成績上位者以外の生徒に対して、主体的に学習する意欲や習慣を身につけさせること。 改善策：習熟度別課題の更なる工夫と、生徒への個別面談の充実を図り、学習意欲と学習時間の伸長を図る。
学校関係者評価委員会の評価	・生徒一人一人の学力向上は、学校・教員の指導力で実現してほしい。 ・教員の平均年齢が若く、学校の雰囲気も学校長を筆頭に活力に溢れおり申し分無いのだが、若手教員の育成を学校として積極的に行ってほしい。			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	・生徒の基礎学力を高めるとともに、発展的学力を高める取組「チームコア輪島」により、高い志を持った生徒集団を育成する。 ・授業ビデオ校内研修会、Find!アクティブラーナー（インターネット研修講座）を活用した自主研修を導入し、教職員の教科指導力、進路指導力、生徒指導力を高める取組を推進する。			

平成29年度 最終評価報告書

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
3: キャリア意識と人間力の向上  ①3年間を見通した組織的な教科指導と進路指導を実践する  ②両科生徒が協働した事業を実施する  ③学校行事・課外活動を活性化する	* 3年間を見通した指導計画の作成と実践 * 進路自主学习	内定した企業や合格(出願)した大学等に満足している生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	<u>94% A</u>	成果: きめ細かな就職指導や進学指導を継続した結果、大半の生徒が内定した企業や合格(出願)した大学等に満足している。  課題: 「ある程度満足している」ではなく、「満足している」との回答が昨年の72%から59%に減少しており、一人一人の適性に合った進路指導を徹底する必要があること。 改善策: 個人面談・保護者懇談・キャリア教育の機会を通して、生徒一人一人の適性をより深く把握し、進路先に対する満足度を向上させる。
	* 全校挨拶運動 * 登校指導	自分はTPOに応じて、適切な振る舞いができていると考える生徒の割合が A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	<u>93% A</u>	成果: 生徒会役員や部活動ごとの挨拶運動、小学生との挨拶運動を実施することにより、TPOを考える機会を増やすことができた。  課題: 社会人として信頼される人間の育成として、挨拶のみならず、身だしなみ、言葉づかい、時間厳守、マナーなど学校生活全般での規範意識を向上させなければならないこと。 改善策: 全教職員の共通理解のもと、授業や部活動など学校生活全般で挨拶や身だしなみ、正しい言葉づかいや会話のやりとりができるよう指導する。
	* チャレンジウォーク * 学校祭 * 部活動 * ボランティア活動	学校行事や部活動に積極的に取り組むことができたと考える生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	<u>90% A</u>	成果: 多くの生徒が学校行事や部活動に積極的に取り組むことができた。  課題: 学校行事や生徒会行事が、ある程度までは生徒の主体的運営によるものとなっているが、より一層の生徒の主体性を引き出す工夫が必要であること。 改善策: 生徒会執行部及び各種委員会の活性化を図り、生徒からの積極的な意見を吸い上げ、生徒の主体的な取組に繋げる。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導に対する生徒・保護者の満足度が高いことは評価できる。</li> <li>・輪島市の人口は20年後4割減少することが予測されている。輪島高校の魅力を全国発信し、生徒募集に努めてほしい。</li> </ul>			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の高等学校として、今後も満足度の高い進路実現を目指し、更なるキャリア意識向上に努める。</li> <li>・生徒、保護者、地域の期待に応えるべく、本校の魅力アップに向けて知徳体を重んじた人間力育成を図る。</li> </ul>			